

非常時に皆で支えあい助けあえるまちづくり



【栄学区】

■世帯数：5,033 世帯

■人 口：7,279 人

■面 積：1.290 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 栄小学校や仲ノ町アイディア公園及び地域の小公園にて、地域の防災力を高めるための取り組みを展開。延べ参加者数は約 250 人。
- ・ 民生委員による高齢者への啓蒙活動。給食会などで阪神大震災の被災者による被災体験の講話を行うなど、災害時に関する勉強会を開催。
- ・ 学区、消防団、女性会などがそれぞれの活動の中で近隣住民の見守りと人間関係の構築を図る。
- ・ キッズファイヤー（少年消防団）による地域の危険箇所等のポイントマップづくりも行っている。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布

【アピールポイント】

色々な役職を兼任している人も多く、そのマイナス面をとらえて批判の声も多いが、在住人口が少ない現状ではやむを得ない。むしろプラスにとらえて各組織が互いにカバーしあい、横のつながりを固くすることで地域と密接につながることが可能である。

2 きっかけ、背景

高齢化が進み、災害時に自力での避難が難しい世帯が増えている中、東日本大震災をきっかけに防災に取り組む機運が高まった。また、阪神大震災の被害者から話を聞く講演会に学区関係者が参加した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、女性団体・女性会
計約 100 人

(2) 運営協力

若い世代（現役の PTA や OB など）の参加を促したい。

4 実施のスケジュール

H23 年 阪神大震災被災者の講演「生への『すき間』30 センチ」を聞いたことから栄
2 月 学区でも何かを始めようという声があがる。



3 月～ 学区、民生委員、消防団、女性会それぞれの活動の中でいろいろな発見等を
話し合い情報を共有することできめ細やかな見守りネットワーク、緊急災害
時の連絡網、避難誘導を徹底したい。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識が高まり、住民間の交流が深まった。小
学校での行事に高齢者を誘い、子どもたちとの自然
な交流を通じて連帯感が生まれた。

(2) 苦労した点

参加者の確保。新規の参加者を増やすこと。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続と他団体との協力が今後の課題。各種団体の構成員も高齢化しつ
つあるので次世代の参加を推し進めたい。

